

ドイツ農民戦争 1524～25年

- 1) ルターを支持する騎士階級が立ち上がり、次いでルターの教えに触発された【1: ^{ふえき}】が賦役の軽減などを求めて武装蜂起した。これがドイツ農民戦争 1524-25 である。
- ①西南ドイツ 都市・農民連合がスイスを模範とする運動を起こした。
- ②中部ドイツ 【2: ^{ふえき}】 1489?-1525 の指導の下に徹底した社会変革を主張。
農奴制、領主制の廃止を要求するに至った。
- カール5世は長年にわたってフランソワ1世(フランス国王)と神聖ローマ皇帝の地位を争ってきた。フランソワ1世が1529年にウィーンを包囲したスレイマン1世(オスマン帝国)と同盟を結んだことから、カール5世は、これと対抗するため国内を安定させなければならず、ルター派を徹底的に弾圧することなどできなかった。
- 2) ルターは初め農民に同情的であったが、農民の目標が農奴解放など社会変革にあることを知ると領主側に転じ、徹底弾圧を呼びかけた。農民は、ほんの僅かな譲歩を得ただけで敗北した。ルターは「キリスト者の自由」を唱え、カトリック教会の腐敗に抗議したが、彼自身も諸侯の保護下にあり、身分制度など当時の現世秩序を破壊することには反対せざるをえなかった。

「一人の支配者のいるところ、一つの宗教」(支配者の宗教、その地に行わる)

- 1) ドイツ農民戦争は1525年に鎮圧されたが、これをきっかけにドイツの諸侯・都市は二派に分かれて、内戦状態になった。この約30年近い長期の内戦に特別な歴史上の名称はない。これはドイツ農民戦争(1524-25)の延長ではないし、もちろん有名な三十年戦争(1618-48)の一部でもないし、シュマルカルデン戦争(1546-47)は、この内戦の一部にすぎない。シュマルカルデン戦争についてはNo.102参照。なお、この内戦の全期間にわたって神聖ローマ皇帝はカール5世^{位1519-56}だった。

《 歴史上特に名前のない内戦 1525-1555 》

〔 皇帝を頂点とするカトリック擁護派
の諸侯・都市 〕 V S 〔 ルター派の諸侯・都市
内戦 〔3: ^{ふえき}〕 1530年結成 〕

この内戦の途中から、トリエント公会議が新旧両派の調停のために開催されたが、新教側が出席を拒否、旧教側だけで教皇の至上権とカトリックの教義を再確認した。No.102に詳述。

1541年にザクセン選帝侯の家督を継いだモーリッツは、宗教改革期のドイツにおいて最も著名な人物の一人である。モーリッツは1551年にフランス王アンリ2世と同盟を結び、ロレーヌ地方のヴェルダン、トゥール、メッスの3司教領をフランスに譲渡し、反皇帝派の諸侯達と結んでカール5世に対する陰謀を計画した。モーリッツの謀反で窮地に陥ったカール5世は翌1552年、パッサウ条約によりプロテスタント領邦に信教の自由を認めた。

- 2) ようやく成立した妥協は1555年の【4: ^{ふえき}】である。

あるいは「アウクスブルクの宗教和議」「アウクスブルク宗教平和令」

厳密には、アウクスブルクの帝国議会が発布した帝国法である。

《覚え方》新教・旧教い(1)ご(5)ゴー(5)ゴー(5) ちょっとムリあり ここでは新教=ルター派、旧教=カトリック

アウクスブルクの宗教和議は、ドイツの諸侯と自由都市※に新教か旧教かの選択権を与えた。

もっとハッキリ言えば、諸侯、自由都市はカトリック、ルター派を自由に選択して、それを自分が支配する領邦国家、自由都市の人民に強制してよいことになったのである。

個人には選択権はない。(自由都市以外の)都市の支配者にも選択権はない。カルヴァン派は選べない。

これが「一人の支配者のいるところ、一つの宗教」(「支配者の宗教、その地に行わる」)の内容である。

※ 自由都市：14世紀以降、皇帝から自治権を与えられ、皇帝に直属し、諸侯と対等の地位を認められたドイツの限られた都市。当初「帝国都市」と呼ばれたが市民の自治が強まるにつれて、自由都市と呼ばれるようになった。イタリアのコムーネとも共通点が多い。自由都市以外の都市の支配者には新教か旧教かの選択権はなく、新教・旧教勢力が都市内に併存対立して、都市自治の衰退を招いた！

- 3) ドイツのルター派の領邦国家では、諸侯が領内の教会の首長となって、修道院の廃止や教会儀式の改革を行い、国家が信教を監督する【5: ^{ふえき}】が成立した。君主(諸侯)は最高の司教として領内の教会の保護支配権を持ち、君主の支配権が強化された。このように宗教改革は、生成過程の主権国家が、宗教をも支配下に置くようになる過程の始まりとも見ることができる。

ルター派は、その後、主にドイツ以北に広まった。・・・デンマーク、スウェーデン、ノルウェーなど。

- 4) 《重要》個人に宗教の自由を認めるものではないが、ルター派は公認され、どんなことがあっても異端は認めないというローマ=カトリックの大原則は崩れた！

カルヴァンの宗教改革

スイス発の宗教改革

- 1) スイスで最初の宗教改革者は【6: ^{ふえき}】 1484-1531 Zwingli。青年期に人文主義者エラスムスから大きな影響を受け、聖書の原典研究に傾倒した。「聖書のみ」を信仰の基準としたこと、万人祭司説など多くの点でルターと同じだが、聖餐論など神学上の若干の重要点においてルターと意見を異にしていた。1523年、チューリッヒに神政政治を確立しようとしたが、29年、教義問題でルターに協力を拒絶された。31年、カトリック諸州との内戦の中で、志半ばにしてカッペルの戦いで47歳で戦死。その主張の一部はカルヴァン派に取り入れられた。 13W
- 2) フランス出身の宗教改革者【7: ^{ふえき}】 1509-64 Calvin は、スイス北部のバーゼルで福音主義を説き神の絶対性を強調したが迫害された。カルヴァンは同じくバーゼルにおいて、1536年、福音主義を理論化した『【8: ^{ふえき}】』を著した。この著作がきっかけで招かれたと言われているが(未確認)、【9: ^{ふえき}】の改革派から招かれ、1540年

代後半から独裁者となり、その宗教的教えをそのまま市政に反映させた。(神政政治)。また、【10: 】を確立した。

ちよつとがってますね→

長老(会)制:カルヴァン派の教会制度。上部から任命される司教をおかず模範的な信徒が長老に選ばれ、牧師を助けて教会を運営する。長老は信徒の代表である。カトリックや各国王はこれを敵視した。

3) カルヴァンの教えは、ルターと同じ福音主義 + 【11: 】よていせつ

カルヴァンは福音主義の立場に立つが、領主への服従は説かず、不法な領主への抵抗は是認した。

福音主義 Evangelicalism : 信仰は聖書を基準とし、救済は信仰によってのみ得られるとするプロテスタントにほぼ共通する主張。

予定説とは、魂の救いは、人間の意志や善行とは無関係で、予め神によって定められているとする説。しかし、それにとどまらず、自分の仕事を神から与えられた天職として励めば、やがて自分が救いの対象となっているという確信を得ることはできる。天職に励んだ結果としての蓄財は、神に選ばれたあかしであるとして、これを認めた。禁欲と勤労を尊ぶ職業倫理が西欧・北欧の勤労市民層に広く受容された。これを「職業召命観」とも言う。

当時のカトリックは蓄財を否定した。『新約聖書』によれば、イエスは「人は神と富とに兼ね仕えることはできない」「富者が天国に入るよりラクダが針の穴を通る方がよほど易しい」などと述べている。中世でも必要以上の財産は教会に寄付すべきものとされ、利子を取る商売は最も軽蔑された。だから金融業者はユダヤ教徒だった。もともと、中世のカトリック教会は大地主で農民から税を取り立てていたから神の教えに反している。そもそもイエスはなぜそんなことを言ったのだろう。イエスが富者の代表のように扱う「取税人」とは、徴税請負人のことで、日本の表現を借りれば「病人の布団を剥いでも税を取り立てる」ほど過酷な取り立てを日々行い、多くの人々を不幸にして(罪を重ねて)財を成した(現代の税務関係のお仕事をされている方々を悪く言うつもりは毛頭無いので誤解されないように)。イエスの生きた時代には、他の人々を不幸にしないで金持ちになる方法は無かったから、金持ちは絶対に悪なのであって、当時の社会状況に照らせば、イエスのこれらの言葉は決して極論ではない。偉大なイエスといえども、その思想も表現も彼が生きた時代の制約から自由であることはできなかったのだ。

現代では、ほとんどの職業で、それを正しく行えば他人を不幸にすることなく、あるいは他人を幸せにしながらかつても蓄財できる可能性がある。たとえば、高倉健さん 1931-2014 は、すばらしい演技と人柄で無数のファンを幸せにしながらかつ、収入も多かったと想像される。仮に諸君が将来住宅建設会社の幹部社員になった時、良い住宅を供給することで顧客を幸せにして、自分も高給を取れる。これが最高度に発達した資本主義社会に生きる幸せである。問題は資本主義企業は資本蓄積・拡大再生産を宿命としていることである。もし、イエスが21世紀に現れたら、神と富についてどんな言葉を述べるだろう。なお、教師はどんなに優れた仕事をして蓄財できる可能性はまったくない。

4) カルヴァン主義は新興市民階級の活動を宗教的に是認した!

《資本主義経済は、カルヴァン派が多数を占めた国や地域でまず成立した》という趣旨を(歴史的にそれが立証できるかどうかは別として)展開しているのは、【12: 】 1864-1920 MaxWeber 著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』である。10Wなど《頻出》 マックス=ウェーバーとも呼ぶ。

……大学で西洋史、経済史を専攻しようとしている生徒諸君には必読書である!この薄い書物は難解で高校生の段階では理解するのは難しいと思われるが、一読してみて「こういう学問は自分に合わない」と感じたら学部を再考することをお勧めする。マックス=ヴェーバーは社会学者、経済史学者で20世紀最大の学者の一人。彼の社会科学の方法論は今日でも大きな影響力を持ち、その信奉者をヴェーベリアンとも言う。

5) カルヴァン主義はヨーロッパ各地の商工業者に広く受け入れられたので、各国で様々な名で呼ばれた。

この各国での呼び方は《頻出》である! 08Kなど

①ネーデルラント 【13: 】 (Geusen 「乞食」の意味) スペイン(カトリック)の植民地カトリック側から、浴びせられた聴くに堪えない悪口を、そのまま自称に使った。

②フランス 【14: 】 (Huguenots 「同盟者」の意味)

③イングランド 【15: 】 (Puritans 清教徒) ……受験知識として「イングランドにおけるカルヴァン派の呼称はピューリタンである」と覚えてよいと思われる。ただし、これには説明が必要。※

迫害されアメリカ大陸に渡ったピューリタンはピルグリム=ファーザーズ (Pilgrim Fathers)

※ピューリタンとは何か? イングランドにおいてカルヴァン派の影響を受け聖書中心主義に立脚する人々は、国教会から離脱したグループと国教会にとどまったグループに分かれた。後者は国教徒として、イギリス国教会の徹底した内部改革を要求した。このような人々をまとめてピューリタンと呼ぶ。

④スコットランド 「プレスビテリアン」(Presbyterians 長老派)

6) イギリスの宗教改革はNo.102で学ぶ。

2014 早稲田大学《抜粋》一般 国際教養

……ドイツの一部諸侯はルターの教えを擁護し、カトリックに対抗した反皇帝の E 同盟を結成した。……

問4 誤りを含むものを一つ選びなさい。

ア ルターは魂の救済が善行によるものではなく、信仰のみによるという信仰義認説を説いた。

イ ルターの教義は印刷により人々に流布し、その影響でドイツ農民戦争が起こった。

ウ ルターを支持した諸侯は独自の領邦教会を創設し、教会を自身の支配下においた。

エ ルターは、チューリヒで『新約聖書』のドイツ語訳を行った。

問5 空欄 E に入る言葉を記入しなさい。

正解: 問4 エ 問5 シュマルカルデン